

「今年のクリスマスに思うこと」  
京丹プロック担当司祭 夫 英豪



12月9日(金)のミサでは、「派遣の祈り」の前に「ひせきにこもりて」を韓国語で歌ってくださいました。

一緒に過ごした長い歳月が流れて……  
一人で孤独なあの世へ行くね……友よ……  
あなたが行く所……愛があつて良き……心……  
にいっぱい……愛を抱えて行つてくださ……  
い……（中略）また再び私たちは会うで……  
しよう……いつ、どこでと決めなくとも……  
会うでしよう……愛しい友よ……胸にこび……  
りついている悲しみや恨みを捨てて安……  
らかに……友よ……安らかに……

この歌は、私が中学生時代に好きだつた歌でした。韓国の歌手「ヒマワリ」というデュエットが一九八五年に発表した歌です。卒業式を控えたある若者が、友達に伝えるメッセージを入れ

経つにつれ、この歌もまた私の記憶の中から消えました。そのようにして二十年をはるかに過ぎた今日、この曲を再び聞くことになりました。

横浜教区で司牧をしていたある神父様が、去る十一月九日突然心臓まひで亡くなりました。その神父様の葬儀ミサで、友達の死を悲しんで追慕の歌を歌うある同期の神父様の追慕曲でした。葬儀ミサに参加したすべての神父様、信者の方々がその方のこの歌を聞いて涙を流しました。

この文を書く私は今、死者の月を過ごしています。そして、この文は妙なことにイエス様の誕生に合わせて皆さんに伝えられます。イエス様の誕生を喜んでおられる皆さんに、このような話をすると理由は、誕生と死はひとつだということを申し上げたいのです。葬儀ミサの時にもしばしば申し上げる

めの誕生でした。私たちは単に、世の中の人々が世俗的な意味でクリスマスを楽しむために集まって、喜ぶそのようなクリスマスを望みません。私たちの救世主が、私たちのために死ぬためにして、今年も間違なく私たちのたんにこの世に来られた神様を待ち望んでいます。



文中に登場するヤコブ・キム・ドヒョン神父様の韓国司教座聖堂での告別式の模様

どこだろう  
何だろう？

教会のどこかで撮影したスナップ写真です。これが何だかわかりますか？



正解は広報部員まで



異国で淋しく死を迎えた一人の司祭の葬儀で、私は真のキリスト者の姿を見ました。横浜教区での葬儀ミサに続き、韓国の議政府（ウイジョンブ）教区での葬儀ミサに一緒に参列して下さった横浜教区長梅村司教様は二度の追悼辞を通じて「亡くなつたヤコブ・キム・ドヒヨン神父様は、本当に日本を愛し、自分に任された信者の方々と幼稚園の子供たちを本当に愛したし、また、神父様も彼らに愛されて亡くなつたので、今後も私たちの日本教会のために神の国で祈つて下さることを信じます。」と語られました。

私たちのキリスト者の真の姿は、仕事をよくしてい るか、誰かに認められるかではなく、本当に愛して生きて いるかにあります。イエス様がおっしゃつたよう に、友のために死ぬことよりさらに大きな愛がないよ うに、私たちは私自身のために信仰生活をするのでは なく、私たちの周りのために、私たちが持つて いるす べての愛を分かち合うそのような信仰生活をしなけれ ばなりません。そうするために、イエス様はこの世に 来られました。私たちがこの世に生まれた理由も愛す るために生まれたのです。

愛しましよう。許しましよう。

愛します。許します。許してください。

皆さんが行く所：皆さんが留まる所：愛がいっぱい でありますように。皆さん的心に常にキリストの愛が いっぱいであることを祈ります。私もまたより一層愛 するため努力します。私たちは、決めなくてもいつ かはどこかで会うでしょう。私たちが本当に愛して生 きていく時、その愛の値で私たちは神の国でまた会う ことになるのです。アーメン。

神様は愛、そのものです。（1ヨハネ4:16）